

日本衛星ビジネス協会 2006年 総会

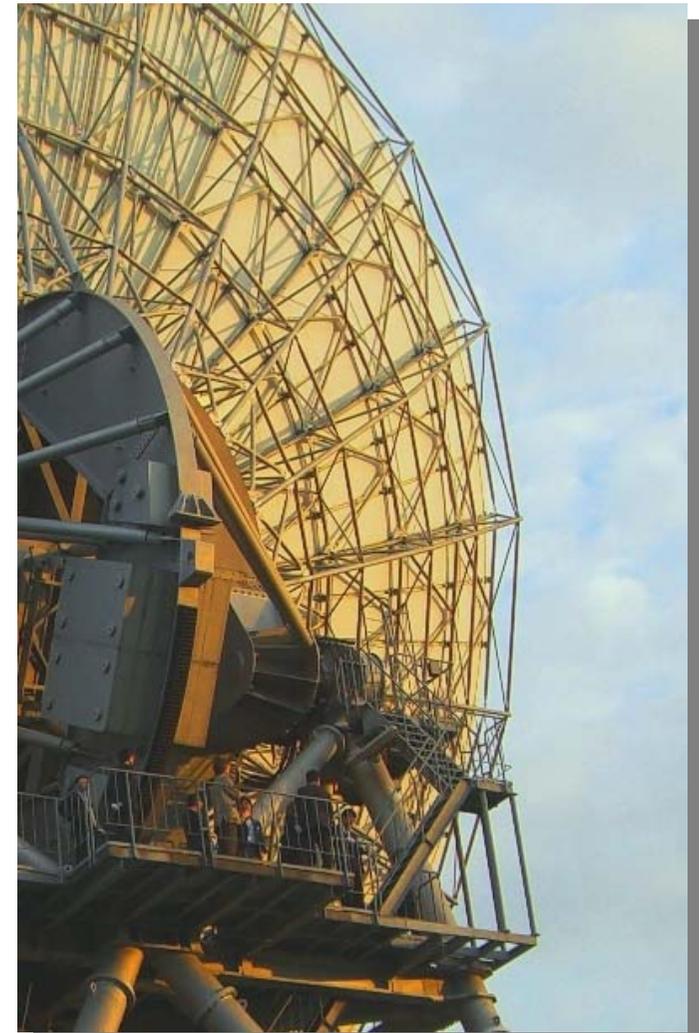
出席者の状況

- 会員数 68 名
- 出席者 25 名
- 委任状 15 名
- 出席率 58.8% (>25%)



上：06年7月施設見学会風景（於：JAXA筑波）

下：06年7月講演会風景（於：JAXA筑波）



上：06年10月施設見学会風景（於：KDDI茨城）

左：06年10月講演会風景（於：KDDI茨城）

日本衛星ビジネス協会 2006年 総会

-
- 開会
 - 会長挨拶
 - 1号議案 2006年活動報告
 - 2号議案 2006年会計報告及び監査報告
 - 3号議案 2007年活動計画
 - 4号議案 2007年収支計画
 - 5号議案 2007年役員選出
 - 新会長挨拶
 - 閉会

1号議案 2006年活動報告 (1/2)

<u>年次総会</u>	2007年1月25日	於 KDDI新宿ビル
<u>役員会</u>	2006年2月2日	於 JSAT本社ビル
	2006年6月1日	於 KDDI本社ビル
	2006年7月6日	於 JAXA筑波センター
	2006年10月26日	於 KDDI茨城衛星通信センター
<u>指名委員会</u>	2006年7月	(メール開催)
<u>施設見学会</u>	2006年7月6日	於 JAXA筑波宇宙センター
	2006年10月26日	於 KDDI茨城衛星通信センター
<u>講演会*</u>	2006年2月2日	於 JSAT本社ビル
	2006年7月6日	於 JAXA筑波センター
	2006年10月26日	於 KDDI茨城衛星通信センター
	2007年1月25日	於 KDDI新宿ビル

1号議案 2006年活動報告 (2/2)

<u>協会HPの更新</u>	2006年12月	全ページを置換
<u>SSPI NEWS</u>	2006年12月	No.34を協会HPに掲載
<u>学生の支援交流</u>	2006年9月	宇宙開発フォーラム (SDF) への協賛
	06年7/10月,07年1月	UNISEC/SDFの施設見学会・講演会参加

* 講演会詳細

2006年2月2日	NTS/秋永和寿Exe.エキスパート	「超高速インターネット衛星の課題」
2006年7月6日	JAXA/森山隆防災利用システム室長	「リモートセンシング衛星とその利用」
2006年10月26日	(1) 佐藤敏雄 元KDD取締役	「衛星通信 夜明け前」
	(2) 金沢大学/別段信一 教授	「地球局アンテナの開発小史」
	(3) B-SAT/永井研二 社長	「「ケネディ暗殺 日米衛星中継」から衛星放送の発展へ」
2007年1月25日	KDDI研究所/平田康夫 会長	「衛星通信のお蔭で」(SSPI殿堂賞記念講演)

3号議案 2007年活動計画

- 総会 年1回開催
- 役員会 年4回開催を予定
- 講演会 年3回開催を予定
- 施設見学会 年2回開催を予定
- 協会PR施策
 - (1)SSPI NEWS No.35を協会HP掲載予定（7月）
 - (2)B-maga 年3回の活動報告記事掲載を予定（7/10/翌1月）
- 学生支援交流施策
 - (1)UNISEC 賛助会員を継続
 - (2)SDF フォーラム協賛（9月）
 - (3)協会イベント 講演会・施設見学会にUNISEC/SDFメンバーを招待

5号議案 2007年役員選出(1/2)

候補者リスト

- 会長 大和久徹 (B-SAT)
- 副会長 矢橋 隆 (NHK)
風神 裕 (三菱電機)
- 事務局長 松藤浩一郎 (SCC)
- 事業部長 西 泰樹 (NTTドコモ)
上野 晋 (JSAT)
- 財務部長 當時久保範一 (SCC)
- 国際部長 河合宣行 (KDDI)
- 会計監査人 大石 強 (NTS)

5号議案 2007年役員選出(2/2)

候補者リスト

■理事

稲垣政文 (NTS)
神谷直亮 (衛星システム総研)
篠原 健 (追手門学院大学)
篠永英之 (KDDI研究所)
末永雅士 (東芝)
角田健一 (ツダビジネスシステムズ)
西宮 務 (KEC)
三浦正春 (SCC)

■相談役

青柳公男 (B-SAT)
大滝泰郎 (テレコムエンジニアリングセンター)
河内正夫 (SCC)
木村 弘 (新衛星ビジネス)
松下 操

2006年活動総括

2006年活動の成果

■ 2007年SSPI(米国本部)との関係整理

(a) Affiliate協定の基本合意* (b) 会費の引き下げ**

* 米国本部と支部の関係を明文化。権利義務に大幅な変更なし。

** 従来の「\$80/会員」から、「\$1600/50会員まで、\$3100/100会員まで」に変更。
中間値の設定を現在交渉中。

■ 協会ホームページのリニューアル

2007年活動に向けて

■ 会員数の維持拡大

■ 会員間の情報共有・人的交流の一層の活性化

■ 学生への支援・交流の活発化